



国内外の災害で苦しんでいる人々のために

特定非営利活動法人 災害人道医療支援会理事・事務局長 徳光 一博

国内外での災害に対する支援活動の実施

特定非営利活動法人 災害人道医療支援会 (HuMA) では 2012 年 6 月に設立 10 周年を迎え、本年 2016 年は 14 年目を迎えています。昨年は海外では南太平洋バヌアツでのサイクロン被災者医療支援、またヒマラヤ山脈ネパール中部での地震被災者医療支援と全く異なった地域での医療支援活動を行いました。そして国内では茨城県常総市での鬼怒川堤防決壊による、避難者健康相談支援を行って参りました。

2011 年 3 月の東日本大震災では、HuMA 設立以来最大規模の医療支援活動を宮城県南三陸町で実施すると共に、その後同じ NGO である、BHN テレコム支援協議会と協働で福島県飯舘村での健康相談活動を展開し今日に至っています。

福島県飯舘村は全村避難区域にあっており、住民の方々は仮設住宅に避難されています。そこで住民の中から全村見守り隊を組織し、無人の飯舘村の安全確保のため警備をされています。従ってその全村見守り隊の方々を対象に健康相談を実施するため、2012 年 6 月から現在に至るまで、毎月あるいは隔月で HuMA の医師、看護師を飯舘村へ派遣し、住民の方々の健康上の悩みや相談等を伺っています。現在までに派遣された医師、看護師は総勢で述べ 110 名以上に上っています。

HuMA の設立

HuMA は 2002 年の 6 月に設立されました。創設時のメンバーは日本国際緊急援助隊医療チーム (JMTDR) の中心的なメンバーであり、海外での災害支援活動の経験豊富な医療スタッフによって創設されました。

また HuMA の基本理念は大きな災害に遭遇して苦しむ人々の救援とその自立を支援することであり、国内外の自然災害、人為災害を問わず、あらゆる種類の災害を

対象に活動しています。そして災害時の緊急医療支援から復興支援、地域開発をも視野に入れた活動を行っています。

現在の HuMA の会員数は正会員 129 名、登録会員 214 名、賛助会員 126 名の合計 469 名であり、そのうち医師が 99 名、看護師が 166 名、薬剤師、臨床検査技師等 78 名になっています。会員は北海道から沖縄まで幅広く全国に亘っています。

HuMA では会員の多くの方々がメールアドレスで会員登録をされています。従いまして国内外で起きた災害に対して、HuMA 内部で出動することが決定した場合に、会員の方々に対してメールで派遣者を募集し、医師、看護師の方々を災害現場へ派遣しています。

最近の医療支援活動

■フィリピン台風ハイエン被災者医療支援活動

2013 年 11 月にフィリピンレイテ島を襲った台風ハイエンは、多くの死者行方不明者を出し避難住民も 60 万人以上に上りま



フィリピンで VSCAN を使って妊婦を診療する医師

した。HuMA では初動調査隊 4 名をセブ島、レイテ島に派遣し医療活動の状況を調査し、レイテ島での医療支援を行うことに決定し、医師、看護師、調整員総勢 23 名を派遣しました。

レイテ島での医療支援は 33 日間におよび巡回診療活動を行うと共に、不足している医薬品を保健省に供与することが出来ました。

■バヌアツサイクロン被災者医療支援活動

2015年3月に南太平洋のバヌアツを襲ったサイクロンは多くの建物を破壊し、避難住民は15万人に上り同国では過去最大の被害になり



バヌアツで子供を診療する医師

ました。HuMAでは同年3月初動調査隊3名をバヌアツ共和国のエファテ島に派遣し、次期本隊医療支援が必要であるとの判断をし、医師、看護師、調整員総勢16名をエファテ島に派遣し、22日間に亘って医療支援活動を実施しました。

そしてバヌアツ保健省からの要請で現地ビスラマ語で書かれた健康教育テキスト千部を周辺の村々の学校等に供与することが出来ました。

■ネパール地震被災者医療支援活動

2015年4月にネパール中部を襲った大地震は、死者負傷者共にネパールで最大規模の地震となり、多くの建物が全半壊の状況になり、また被災者の多くが



ネパール語の指さし会話表を使用し
て診療する医師

屋外での生活を余儀なくされました。HuMAでは同年5月に3名の初動調査隊を現地に派遣し、並行して医師、看護師、調整員15名をネパール北東部ラムチェ地区へ派遣し、医療支援活動を実施しました。特に余震等にも充分注意しながら支援活動を行い、22日間に亘って診療活動を展開することが出来ました。

そして地区のヘルスセンターに医薬品の一部、医療資器材等を供与すると共にネパール保健省及び在ネパール日本大使館にHuMAの医療支援活動の報告を行うことが出来ました。

■東日本大震災での被災者医療支援活動

2011年3月に発生した未曾有の東日本大震災に対しては、2002年のHuMA設立以来国内外では最大規模の医療支援活動となりました。まず3月中旬に医師、看護師計4名からなる初動調査チームを宮城県に派遣し、被災地周辺を調査しました。そして南三陸町の志津川病院が壊滅的な状況にあり、医師、看護師も不足しているため、最終的に宮城県南三陸町での医療支援活動を行うことに決定しました。

その後宮城県での医療支援活動は5月末までの2ヶ月半に亘り、医師、看護師、調整員述べ66名を南三陸町に派遣し、現地での医療支援活動を行いました。そしてその後の支援活動として公立志津川病院立上げのためや、南三陸町の医療統括本部の解散に向けての準備のための支援活動を行いました。従来から海外での災害を中心に活動してきたHuMAですが、国内における支援活動でもこれら海外での災害支援活動のノウハウを十分に活用することが出来ました。

■その他の支援活動

HuMAでは災害現場への医療チーム派遣のほかに医療機関、教育機関、企業、自治体における災害医療研修等を随時行っています。HuMA研修では豊富な災害救護活動の経験を持つ講師陣によって行われ、講義からより実践に近い研修内容になっています。特に派遣シミュレーションや安全シミュレーション等を中心に実際の派遣の際にどのように対処すべきかをグループごとに討議をしてもらっています。

またHuMAでは地域の連携を強化すべく災害医療に関する企業向けの研修事業を展開しています。特に最近では関東近郊の自治体から災害時のトリアージ研修の依頼が多くあり、各自治体での災害時における意識の高さが伺われます。

以上